

公益財団法人 JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会を創る活動」

『高齢者グループリビングの社会的普及に向けた実践的調査研究事業』

川崎シンポジウム・グループリビング見学ツアーを開催しました。

NPO 法人暮らしネット・えん主催、グループリビング運営協議会共催で、3月30日に川崎市内の3つのグループリビングの見学ツアー、3月31日に川崎市国際交流センターにて川崎シンポジウムを開催しました。

見学会では、おでんせ中の島、COCO 宮内、COCO せせらぎの順で訪問しました。住まいの見学の後に運営者による、開設の経緯や運営方法、現在の状況、課題についてお聞きする機会がありました。見学会は29人の参加がありました。

川崎シンポジウムは、「高齢者グループリビングが生み出す新たな共同性」をテーマに三部構成になっており、まず、上智大学教授 栃本一三郎氏の基調講演「クオリティ・オブ・デス&ダイイングからみたグループリビングで暮らすこと」に続いてセッションⅠ「高齢者グループリビングと共同性」、セッションⅡ「高齢者グループリビングの居住とケア」をテーマに運営者や研究者がこれまでの研究成果を発表しました。川崎シンポジウムは40人の参加がありました。



会場の様子

3月31日 川崎シンポジウム (川崎市国際交流センター)



上智大学教授 基調講演 枅本一三郎先生



NPO 法人いぶりたすけ愛理事長 星川光子



甲南女子大学教授
中西眞弓

慶應義塾大学
近兼路子

立教大学
林和秀

NPO 法人暮らしネット・えん
小島美里

慶應義塾大学名誉教授
大江守之



NPO 法人結いのき専務理事
井上肇



京都光華大学短期大学部講師
宮野順子



慶應義塾大学 SFC 研究所上席所員
土井原奈津江



会場の様子

3月30日 川崎グループリビング見学ツアー



おでんせ中の島



COCO せせらぎ



COCO 宮内

新会員のご紹介

一般社団法人
家事住宅供給社
伊藤敬子



初めまして私達は「一般社団法人 家事住宅供給社」通称“HAHA”と申します。

HAHAは **H**ousekeeping **A**ssisted **H**ome **A**ssociation の頭文字をとって **HAHA** なのですが、まさに母親達が作った母の為の社団法人です。HAHAの目標は「**孤独問題と女性の労働問題**を家事付き住宅で解決すること」です。

具体的に申し上げますと幼稚園のママ友が話し合った結果「ダブル介護や母子家庭の共同保育を解決する方法」は「家事付き住宅を世の中にたくさん供給すること」ではないかと考えました。

幼稚園にしか子供を預けられなかった母達は当然保育園に落ちた母達なのですが、保育園に入れなかったのには、子育てもあるが介護もあり仕事が続けられなかったり、労働時間が長過ぎるから子育てしながら居座るのは気が引けて自ら職を辞してしまったからなどの事情があります。日本の歪みに帳尻をあわせる我々女性の労働環境には保育園も介護施設も必要なのは勿論なのですが、他に私達の出来ることはないのでしょうか？

そうすると…家に学校から帰ってママがいなくても、他の人家族のような人が「おかえり！」と言ってきて夜ご飯が出来ているといいよね…とか、デイサービスに行くまでの時間家族でなくても「行ってらっしゃい！」と送り出してくれる家族みたいな人が近くに住んでると安心して早く会社に行かれるのにね…となりました。

それをどうシステム化すればよいか、継続可能なコミュニティとなるか解らなかったのですが、これはつまり「グループリビング」に住めば可能なわけです。

たまたま老々介護の両親の住まいを探していた私はNHKの「所さん大変ですよ！」の中で紹介された「COCO 宮内」を拝見し見学を通して「グループリビング」という考え方に初めて出会いました。「ココ宮内」の幸せな空間に「現世の天国だ」とさえ思い感激しました。

その訪問から3年後の現在、自宅の隣にアパート用地を確保するという幸運を得た為そこをグループリビングにすべくチャレンジしております。

2019年3月末のシンポジウムに参加させて頂きCOCO宮内のような成功例はまだまだ少なくそれもひとえに理事長の原様のご努力の賜であると納得したのですが、何とか凡人の我々でも出来る用にぐんと小規模なのですが、その分かりやすいサービスを追加したタイプのグループリビングの開設を目指しております。

ただ東京目黒の賃料の高さもネックとなり苦戦しております。今後は皆様のご経験も承り準備していきたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

NEWS

『オーナーズテラス自由が丘』（一般社団法人 家事住宅供給社 代表 伊藤敬子氏）が「人生 100 年時代を支える住まい環境モデル事業」に選定されました。

「人生 100 年時代を支える住まい環境モデル事業」の詳細

<http://100nen-sw.jp/index.html#jigyou>

「人生 100 年時代を支える住まい環境モデル事業」の評価結果報告書

<http://100nen-sw.jp/index.html#jigyou>

伊藤さんからいただいた説明資料から『オーナーズテラス自由が丘』の特徴、課題設定と解決方法、新施設の概要、事業推進体制を抜粋し掲載しました。

新施設の特徴①

1.入居者自宅の子育て世代向けシェアハウス化支援

- 新施設に、高齢者の生活・住み替えリフォーム相談サービス窓口を整備。
- 現自宅の持て余している部屋をシェアハウス化提案、リフォームまで支援。
- シェアハウスへの子育て世代の入居者募集をサポート。
- 高齢者は自宅を活用しながら **自宅に住み続ける**
or
入居費を稼ぎながら施設に入居できる

7

高齢者自宅のシェアハウス化によるメリット

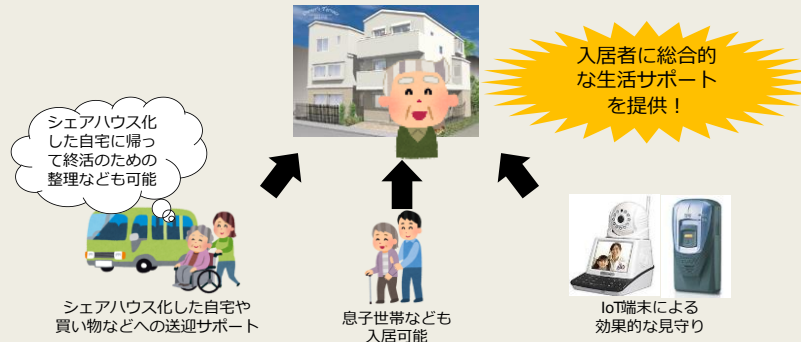
これらの問題を一挙に解決出来るのが本事業です。

8

新施設の特徴②

2.生活の縛りがない入居型生活相談サービス施設

- ▶ 自宅リフォームに伴い高齢者が施設に入居し、**生活支援**が受けられる。
- ▶ 入居者は高齢者のみならず**息子世帯なども入居可能**にする。
- ▶ 施設に入居し続ける方はシェアハウス化した自宅に定期的に**送迎サービス**する。
- ▶ 各種IoT端末による**効果的な見守り**により自由に外出等ができる。

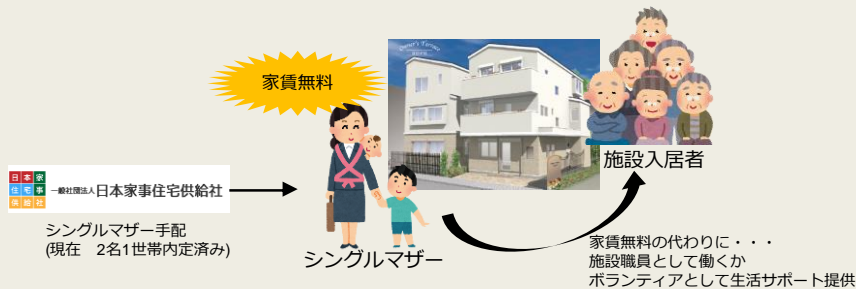


9

新施設の特徴③

3.シングルマザーの活用・住居支援

- ▶ シングルマザーを職員又はボランティアとして無料で住まわせる。
- ▶ 職員は9～18時(1時間休憩)で仕事として生活サポートを行う。
- ▶ ボランティアは自宅にいる時間(7～9時・18～20時)で軽微な生活サポートを行う。
- ▶ 高齢者は困った時に生活サポートが受けられ、シングルマザーは負担減となる。
- ▶ 職場と自宅が同じなので、子どもとできるだけ一緒にいて世話もできる。



10

課題設定とその解決方法

課題設定と解決方策の適切さ、先導性・創意工夫、多様な事業効果

課題	解決方策	計画実施の結果
高齢者施設入居 = 自宅を手放す 将来や施設入居費用の心配	相談を受け自宅をシェアハウスにして賃料を貰いつつ住み続ける支援を提供	慣れ親しんだ自宅に住み続けられる施設に入居しながら賃料収入を得られる
自由が少なく家族と離れる 高齢者向け施設	IoTによる管理システム導入しつつ、ご家族も入居可能	高齢者は安全でストレスなく、家族とも生活できる
子育て世代の住居	シェアハウス化した高齢者の家を借りられ、シングルマザーは施設に住み込みで家賃などを抑えられる	日々の生活にかかる家賃を抑えて子育てなどに多くのお金を使うことができるようになる

波及効果・普及可能性

新施設内での生活のみならず、自宅を一部賃しながら自身も住んだり定期的に帰れるシェアハウス化するまで一貫して支援するため、広く波及する可能性を秘めている。

支援の妥当性・必要性

高齢者や子育て世代、シングルマザーなど様々なライフステージに応じた居住ニーズにも対応できる本計画は、全ての世代にとって有益であり、誰もが安心して暮らせる住環境の整備を促進する、現代社会において必要性の高い取り組みで、様々な世代が共に生きる社会の確立のためにも支援の妥当性は高いと自負している。

11

新施設の概要

用途：生活相談サービス窓口機能付き、入居型生活相談サービス施設

施設名：オーナーズテラス自由が丘 (改修後)

所在地：〒152-0034 東京都目黒区緑が丘2-3-21 (取得済み)

入居定員：8室・最大14名(1人部屋2室・2人部屋6室)

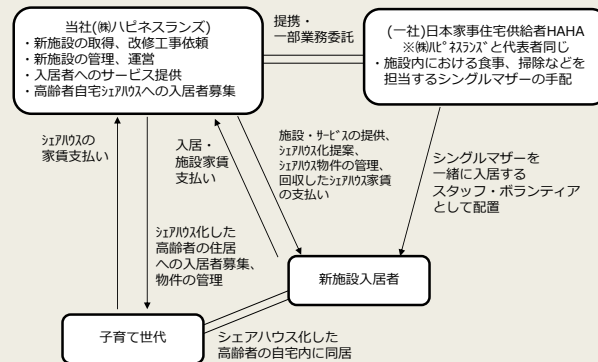
うちシングルマザー入居可能部屋2室を含む スタッフ専用部屋1室は入居定員に含んでいません。



※改修後イメージ。

12

事業推進体制



『オーナーズテラス自由が丘』の見学会を10月27日の総会と兼ねて行います。
皆様、お誘い合わせのうえ、ご参集くださいますよう、お願い申し上げます。



総会のご案内

2019 年度総会（理事会）・見学会を開催いたします。

日時 10月27日（日）10時～12時（総会・理事会）

12時～13時（ランチ）

13時～14時（見学グループリビング「オーナーズテラス自由が丘」）

場所 緑が丘コミュニティセンター

東急東横線自由が丘から徒歩6分

<https://map.goo.ne.jp/place/1300233692/>

*「オーナーズテラス自由が丘」は協議会会員の伊藤敬子さんがつくられた新しい住まいです。

ランチはオーナーズテラス自由が丘のスタッフの手作りです！

ランチの用意がありますので 10月15日までに土井原まで出欠をお知らせください。



2018 年度報告書が完成しました。

2018 年度報告書を9月末に発送しました。報告書Ⅰ（総括編）、報告書Ⅱ（シンポジウム・調査報告編）の2冊がお手元に届く予定です。

もし、届かない場合は土井原までご連絡ください。



この会報は、公益財団法人 JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会を創る活動」で運営されています。

編集後記

長寿の高齢者を対象にした研究に携わり、85歳から90歳の高齢者の生活や身体活動についてインタビューを行った。毎日2万歩あるいている男性や、ハイヒールを履いた社交ダンスが趣味の女性、古武術の師匠の女性のような強者もあらわれたが、一般的には、ラジオ体操やテレビ体操など毎日のちょっとした運動習慣をもっている方が多かった。ふだんから元気からだを動かすことで、糖尿病、心臓病、脳卒中、がん、ロコモ、うつ、認知症などになるリスクを下げることができることが明らかになっている。厚生労働省が2013年3月に策定した「健康づくりのための身体活動指針」には、今より10分多く体を動かすことを推奨している。健康のために運動習慣を身につけましょう。

編集委員 土井原奈津江 小島美里